

夕焼小焼

木枯らし 一号が例年より一ヶ月も早く
来襲、そのあとも波状的に晚秋寒波が続い
た。先月末の寒波では十月としての初雪や
大雪の記録が各地で塗り替えられてしま
った。秋を味わい忘れたように、何か季節
の進みに追いまくられ、慌ただしく晩秋す
ぎさつていくような気がする

文化の日は「統計のうえでは晴れが多い
『霜異日』」にあたり、小春日和の暖かい
日になりやすい。例年ならば十二月の始め
は、武藏野の雑木林ほんの少し色づきはじ
め、柿の木には熟しい柿の実が残り夕焼け
が一番よく似合う季節なのである。まさに
中村雨紅作詞の「夕焼小焼で日が暮れて
山のお寺の鐘がなる・」の世界である。
この歌の舞台とされているのが、氏のふ
るさと高留(たかとめ)、いまでも夕焼小
焼の里と呼ばれている。東京八王子から陣
馬高原にぬける陣馬街道沿いの詩情あふ
れる山里である。秋の日はつるべ落とし」
に暮れて家路に急ぐ子供らを追いかけて

夕暮れがあつという間に迫る。十一月始め
は、午後三時から六時までの気温の下がり
方が二年を通して最も大きく、夕暮れが迫
るにつれて急に冷え込む。都会ではあまり
見られなくなつたが、この季節、ワラ焼の
残り火による煙が夕暮れ時の烟も上に低
く覆つている風景に出会うことがある。

ゆらりと立ち登る煙が頭を打つたよう
に薄く広がり、夕焼けに映えて詩情を誘う。
陽が西に傾くにつれて地面から熱がどん
どん奪われ、地面近くから空気が冷やされ、
人の高さするそれからもう少し上に暖かい
い空気が残り、気温が逆転する層ができて
しまう。それが目に見えない空気の蓋とな
って煙を抑えてしまうからである。夕焼小
焼のお寺は、おそらく石段を何十段も上が
った上にあるので気温の逆転層の上とな
る。山寺の和尚さんは暖かい山の上で鐘を
ならしていることになる。

ともあれ明後日は暦のうえでもう「立
冬」、いよいよ冬を身構えねばならない季
節がやって来る。七五三のお参りに出かけ
る時には、一枚重ね着をもつていくように

おすすめしたい。一九九八年一月八日